

まちの話題

今年も豊作

ひのっこ保育所交流も掘り

10月15日、ひのっこ保育所（津地）の子どもたちと、地元津地の住民との交流も掘りが、津地地内の畑で行われました。

これは、集落での農地保全活動に支払われる中山間地域等直接支払交付金を利用した事業のひとつ。

当日は、保育所の年中児と年長児、地元住民が参加し、子どもたちが6月に植え、大きく育ったサツマイモを収穫しました。

収穫後は、地域の人に焼きいもにしてもらったり、保育所に持って帰っておやつに食べたりしました。



どんなのが出てくるかな？

あなたの声や地域・職場での話題をお寄せください。
★役場企画政策課まで（電話72-0332）



沿道から「頑張れ」の声

根雨のまちを疾走

町駅伝競走大会

10月17日、町制50周年記念第50回体力づくり日野町駅伝競走大会が開かれました。

今回から、役場前をスタートして根雨のまちなかを通る2kmの道のりを、選手5人がたすきをつなぎながら往復するコースに変更しました。

参加したのは小学生から一般までの16チームで、沿道からの声援を受けながら精いっぱい走りを見せました。

【優勝チーム】小学生の部「根雨スポーツ少年団B」、中学生の部「駅伝部Aチーム、高校の部「日野高校野球部A、一般の部「ランナース」

色づく自然を満喫

もみじ開運ウォーキング

紅葉を楽しみながら秋の日野路を歩く、町制50周年記念第2回「もみじ開運ウォーキング」（町観光協会主催）が、10月24日に行われました。

コースは、滝山公園をスタートし、金持神社までの約14kmの道のり。町内外から約100人が参加して、道沿いの雄大な自然を眺めながらゴールを目指しました。

ゴールの金持神社礼所では、豚汁サービスやおこわの販売など、地元住民らが参加者をおもてなし。参加者からは、「長い道のりだが豚汁で疲れが飛んだ。また来てみたい」などの声が聞かれました。



秋の行楽にぴったり

なじみ深い風景ずらり

日野町ふるさと百景写真展

未来に残したい日野町の風景写真を展示した、町制50周年記念「日野町ふるさと百景」写真展が、10月29日から11月1日までの4日間、山村開発センターで開かれました。

展示されたのは、過去5年ほどの間に撮影された町内の自然や史跡などの写真100枚。今年の春から広報ひのこを通じて募集、9月末までに町内外の12人から計250枚の応募があり、そのうち審査を通過した100枚を「百景」としたものです。

会場に訪れた人たちは、一点一点をゆつくり眺めながら、「これはあそこ写真だ」「きれいに撮れている」などと話しながら、ふるさとの風景を楽しんでいました。



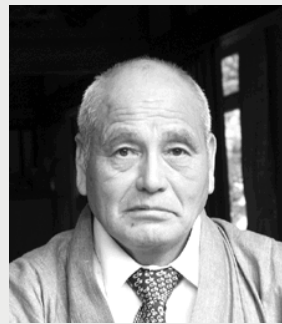
見覚えある風景に話も弾む

おめでとうございます

小早川昭謙さんに藍綬褒章

▼秋の褒章

11月3日、秋の褒章受章者が発表され、町からは、小早川昭謙さん（黒坂）が藍綬褒章を受章されました。小早川さんは、長年にわたる保護司としての功績が認められ、今回の受章となりました。



受章のことば

「罪を犯した人たちの更正や犯罪予防などの活動をしています。過ちを犯した人たちが立ち直るためには、家族や社会の支えが大切だということを痛感しています。27年も保護司を続けられたのは、温かい気持ちで付き合ってくださいました関係者の皆さんのおかげです」

枝原瑞江さんに瑞宝単光章

▼秋の叙勲

11月3日、秋の叙勲受章者が発表され、町からは、枝原瑞江さん（根雨）が瑞宝単光章を受章されました。枝原さんは、元日野病院看護局長としての功績が認められ、今回の受章となりました。



受章のことば

「看護師という仕事を通して、医療とはデータではなく、人としての感情の仕事なのだとことを学びました。この受章は、病院スタッフの皆さんが働いてくださり、助けてくださったおかげ。長く勤めた日野病院が現在も存続しているのがとてもうれしいです」



オシドリに関する資料、写真などが豊富に

観察のとき立ち寄って

オシドリ資料館オープン

根雨のオシドリ観察小屋に訪れる人たちなどにオシドリのことを知ってもらおうと、11月1日、観察小屋近くの空きビルを活用したオシドリ資料館が開館しました。この資料館は、以前に障がい者授産施設セルプひの（根雨）の2階に保管されていた、オシドリグループ（池岡幸三代表）所有の資料を移設したもので、運営はセルプひのが行っています。館内には資料スペースと喫茶コーナーがあり、オシドリの写真や全国から寄せられた手紙、グッズなどが展示されているほか、喫茶コーナーでは、コーヒーやケーキ、うどんなどを提供、観察客らの憩いと交流の場になっています。



南部町東上で行われた完成記念式典

南部町がさらに身近に

西伯根雨線が全線開通

舟場から伯耆町二部を経由し、南部町落合までを結び、県道西伯根雨線（総延長約20キロ）が、10月27日に全線開通しました。

西伯根雨線は、大規模災害時の防災幹線ルートとして昭和58年度に着工が始まり、平成5年には間地トンネル（舟場）が開通。このたび、南部町東上の金山峠付近のバイパス工事が完成し、全線開通となりました。